

OA 誌と非 OA 誌の Impact Factor の経年変化

Investigations on Impact Factors' Changes of Open Access Journals and Non-Open Access Journals

学籍番号：201621653

氏名：田 雪

Xue TIAN

本研究では、学術雑誌の引用量の変化とオープンアクセス化の関係を明らかにするために、Clarivate Analytics 社が提供している JCR のデータを用いて、分野カテゴリ毎に OA 誌と非 OA 誌の Impact Factor (IF) の平均増加率を比較し、OA 効果の有無を探究した。

本研究の結果、OA 効果がある程度存在する可能性が示された。これまでの研究では、一部の分野などでの OA 効果しか明らかになっていなかったが、本研究ではできる範囲でより広範な分野カテゴリにおいてこの効果の可能性を考察できた。しかしながら、この知見が活かせる分野カテゴリは、オープンアクセス化がより顕著な影響を与えた工学、医療・健康・スポーツ科学、総合・複合領域、生物・農・獣医・水産学と教育学・心理学・社会学主分野カテゴリの 5 個の主分野カテゴリに限られる。法学・政治学・経済学主分野カテゴリにおいては、本研究では OA 効果は確認できなかった。

本研究では、36 個の分析対象副分野カテゴリのうち 30 個、即ち 83% のカテゴリにおいて、OA 誌の方が非 OA 誌より IF 平均増加率が高いことが示された。だが、増加率ではなく 2014 年と 2015 年の IF の平均値を見ると、36 個の分析対象副分野カテゴリのうち 31 個、即ち 86% のカテゴリにおいて、非 OA 誌の方が OA 誌より IF の平均値が高いことが示された。Impact Factor の値はまだ非 OA 誌の方が高いものの、OA 誌が高い IF 平均増加率をもって非 OA 誌を追い上げている現状が明らかとなった。OA 誌の IF 平均値の増加がいつまで続くのか、非 OA 誌を超えるまで続くのかは分からないものの、今後も注目すべき傾向と言えよう。

今後の課題であるが、今後は 2005～2015 年の 10 年間など、より長い期間で複数のデータベースの引用データに関する考察を行い、より多面的な分析や継続的な観察を行いたい。

研究指導教員：辻 慶太

副研究指導教員：芳鐘 冬樹